

第36回 支店長のわがまち紹介

茨城県結城郡 八千代町

肥沃な土地で育つ農作物PRと企業立地を進めるまちづくり

白菜畑と筑波山（写真提供 八千代町）



茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第36回は、八千代町です。筑波銀行は、町内に営業店を設置し、八千代町の皆さまと密接な関係を築いています。八千代支店長の綿引竜一が、八千代町長大久保司氏、秘書課課長谷中聡氏、秘書課秘書広報係兼コミュニティ係主幹古橋一裕氏にお話を伺いました。

●八千代町が一番と考えていること、自慢できることはどのようなことでしょうか

【日本一の白菜産地】

八千代町は、首都東京や多くの研究所が立地する筑波研究学園都市に近接し、恵まれた場所に位置しています。

町内は、鬼怒川をはじめとする河川や広大な農地を有するのどかな田園風景が広がり、この平坦で肥沃な土地と温暖な気候、そして東京に近いというメリットを活かし、本町は首都圏の食糧基地機能を果たしています。

特に白菜は、昭和41年に指定産地となって以来年々生産量が増加し続け、今や「日本一の白菜産地」となっています。日本一になれた理由は、本町の気候が白菜の栽培に適しているからです。霜が降りる時期、葉に蓄えられた養分が糖化することで、やわらかく甘味のある立派な白菜が育つといわれています。

そこで本町は、県内外にこの日本一の白菜をPRするため、2011年に「白菜プロジェクト」を立ち上げ、町をあげて取り組んでいます。



白菜キムチ鍋（写真提供：八千代町）

プロジェクトの第1弾は、八千代町産の白菜と茨城県産の豚肉をたっぷり使用することを条件とした「白菜キムチ鍋」をメニューに追加してくれる店の募集です。現在、町内19の飲食店でキムチ鍋がメニュー化されており、各店オリジナルの味をお楽しみいただくことができます。

第2弾は、「白菜メンチカツ」の開発です。メンチカツに八千代町産の白菜を混ぜ込むことでよりジューシーになり、さらに甘みも増すため、召し上がった方々から大変好評を頂いています。町内の精肉店や憩遊館で販売しておりますので、ぜひ一度味わっていただきたい逸品です。

【メロン生産量全国8位】

本町は、フルーツの生産地としても有名です。特にメロンの生産量は、全国8位を誇ります。



アールスメロン（写真提供：八千代町）

町内では多くの品種が栽培され、特に6月頃に旬を迎える「貴味メロン」は糖度が高くジューシーで、贈答用として人気です。また、10月頃が旬の「アールスメロン」は1株に1個しか実ができない“果実の芸術作品”といえます。

【梨の銘柄産地】

本町は、鬼怒川西岸の肥沃な沖積土（あくど）で栽培される「あくど梨」の銘柄産地にも指定されています。また、8月は甘味が強い「幸水」、9月は甘みと酸味がある「豊水」、10月は大きな実が特徴の「新高」や最新品種の「あきづき」など、夏から秋の終わりにかけて様々な味をお楽しみいただくことができます。



大久保町長



谷中課長



古橋主幹



綿引支店長

【都市と農村を繋ぐ「クラインガルテン八千代」】

町内には、都市と農村を繋ぐ滞在型市民農園「クラインガルテン八千代」があります。

クラインガルテンとは、ドイツ語で“小さな庭”という意味です。ラウベと呼ばれるコテージには、キッチンやバス、寝室、農園が完備され、キャンセル待ちが出るほど好評をいただいております。



クラインガルテン八千代 (写真提供:八千代町)

【町民憩いの場「八千代グリーンビレッジ」】

約8万㎡の広大な敷地に公園や温泉施設、農産物直売所が一体的に整備された「八千代グリーンビレッジ」も人気の施設です。

公園部分は、宿泊施設やキャンプ場、体験林などがあります。また、温泉施設「憩遊館」は地下1,500mから湧き出る天然温泉を使用し、心身ともにリフレッシュする場として人気です。隣接する直売所では、新鮮な野菜が多数並び、それを目当てに県内外から多くのお客様が訪れています。

【地域の絆が強いまち】

本町は平成27年の国勢調査で、1世帯あたりの平均人数が3.23人と県内トップになりました。また、平成25年時点で、合計特殊出生率は国や県の平均数値を上回る1.65となっています。

近年、核家族化が進展し、地域における地縁的な繋がりが希薄化しています。一方、本町は数値が示す通り、町内にはにぎやかな家庭や親世代と同居している世帯が多いことから、昔ながらのコミュニティ活動が盛んであり、地域の絆は強いものになっています。

●今後の展望についてお聞かせください

【「町の魅力を最大限に活かし 人・地域が輝く 安全なまち八千代」を目指して】

本町では、平成28年3月に「八千代町 まち・ひと・しごと創生総合戦略」並びに「八千代町人口ビジョン」を策定しました。今後はさらに魅力的な町にするため、基本理念をもとに様々な施策に取り組んでいきます。

■企業立地の推進

平成24年、隣接する古河市内の工業団地に日野自動車(株)の工場建設が移転されたことを契機として、今後多数の関連企業の進出が見込まれます。また、圏央道の開通や筑西幹線道路の整備が進むことで、本町の立地条件は格段に良くなります。これらを積極的に県内外へPRし、企業誘致に繋げていきます。

■移住者に対する支援の推進

本町への移住・定住促進のために、「転入者住まい応援事業」「Iターン者軽自動車購入支援事業」「社宅・社員寮整備支援事業」「新規学卒者雇用促進事業」などを推進し、移住者に対する支援策を充実していきます。

■教育環境の充実

町内の小学校は、全校で耐震工事が完了しました。また、昨年度に新校舎が完成した八千代第一中学校に続き、本年度は八千代東中学校も完成予定です。教育環境の充実化を図ることで、安心して子育てができるまちを目指します。

●筑波銀行に期待することをお聞かせください

国は、重要な課題として「地方創生」を掲げており、本町も「地域活性化」のために各種施策を積極的に実行する必要があると考えています。

また、金融機関もこれまで以上に地域における役割が重要になると思います。銀行がこれまで蓄積してきたノウハウやネットワークを活かし、本町の持続的な発展に貢献していただきたいと思っています。

(文責：筑波総研株式会社 研究員 富山 かなえ)